

「逢いたいな…」

2024 02

昨年6月に「がん」の手術をしてから、毎月のように病院通いをして、経過観察を受けてきました。主に転移があるかどうかをチェックするためです。今のところ転移は無くホッとして新年を迎えた矢先、金沢巡業の雪解け道で、スッテンコロリン、右肘を骨折してしまいました。

ほぼ一ヶ月、ギプス生活を余儀なくされ、新作『大好き～奈緒ちゃんとお母さんの50年～』編集のラストスパートにブレーキがかかってしまった。映画の神様が与えている試練、と受け止めてはいるけれど…。

自分で始めたこととはいえ、我が“奈緒ちゃんシリーズ”はよくぞ半世紀も撮影を続けた、と思っています。「長くは生きない…」と言われていた、姪っ子 奈緒ちゃんとその家族の記録は、今編集中の『大好き』で第5話になります。

「元気な奈緒ちゃんを撮る」という想いだけで始まった映画なので、奈緒ちゃんが元気でいる限り撮り止める理由が無いんだ。ただ、奈緒ちゃんに逢いに行く。ただただ、奈緒ちゃんの家族に逢いに行く、というだけの繰り返しで続けてきた撮影だから、撮りためた映像を、どう編集するか、どう構成して行くかで、物語にたどり着く、ドキュメンタリーならではの映画創りだけど、なかなか大変なんだ、これが。

肉体労働のような編集作業が一年近く続いて、今ようやくと少しは頭を使う段階に入ってきたところかな？ “頭を使う”といっても、理屈をこねるわけではなく、「いいなあ」と思ったり、気になる映像と音のハーモニーを探ったり、という感仕事だけだね。

大事なものは、言葉になる前の想いが、どれだけ濃密か、ということだ…というか、どれだけ本当に語りたいたい想いがあるか、心の底から、うめき声のように湧き出てくる、むしろ言葉にならない声で、“映画”という歌を唄うことができるか、ということだと思ふ。

「言葉になる前の想い」「言葉になった後の想い」にこそ、本当のことがあるのだ…。そう思い切ることで、映画は映画ならではのイメージの奥行きにたどり着ける、と思っている。「言葉にすると嘘になる」と思い切ることを拠点にして出来上がる作品をこそ、“映画”と呼んでみたい。

「愛してる」と言葉で言わずに「愛」という想いを手探りで確かめようと、するよにな。

新作のタイトル『大好き』は、まだ編集の途中でふと浮かんできた言葉だ…。奈緒ちゃんがお母さんのことを“大好き”で、お母さんが奈緒ちゃんのことを“大好き”で、いいな…相思相愛って、と編集しながら素直に思ったから。けど、片思いにだって「大好き」はあるしね。

「好き」の上に「大」を付けて「大好き」。50年に及ぶ“奈緒ちゃんシリーズ”の「いのち」を巡る長い旅は、「大好き」の奥行きを歩み続ける想いの時間だった。たどり着くことのない旅に違いないけど。

で、映画を観る人が奈緒ちゃんを巡る時間を、そのまま自分の生きてきた時間と重ね合わせて見つめていく時に、「大好き」の中身が、観る人それぞれの「言葉になる前の想い」として受け止められるのだ。

映画は、観る人と出逢ってはじめて映画になってゆくのだから…。

春、  
50年間の映画の舞台、  
奈緒ちゃんの家のお隣にある  
公園の桜が咲いて散り始める頃に  
映画『大好き～奈緒ちゃんとお母さんの50年～』  
は完成する筈です。

逢いたいな…  
きっと逢えますように。

伊勢 真一